

右往左往する政治家と政党

今日、やっと開催される臨時国会冒頭で、安倍首相は審議もせずに衆院を解散するという。なんとも、おかしい憲法違反の「解散劇」だ。

内閣が解散するにあたり、閣議書にすべての国務大臣の署名が必要とされる。そこで、遅くなったが「提案」がある。国務大臣の何人かが、せめて閣議書への署名を拒否することを提案したい。第3次安倍内閣は、先月8月3日「仕事人内閣」として発足した。まだ2ヶ月も経っていない。やっと臨時国会の場で、多くの国務大臣は所信を表明し、質疑ができると張り切っていたはずだ、と思いたい。それが突如、取りやめになるとは。とにかく大臣としての仕事も、ほとんどやっていない。「仕事人(師)内閣」が看板倒れになる。これでは「仕事しない内閣」と歴史に刻まれてしまう。

拒否してもらいたい大臣として、まずは野田聖子・総務大臣(写真は官邸入りする野田議員、『世界』10月号)をあげたい。河野太郎・外務大臣もあげたいが、期待通り安倍べつたりのようで、やめておきたい。野田氏の大臣就任は、内閣改造の「目玉」人事であり、内閣支持率の



回復にも貢献したと思う。それが一部週刊誌では騒がれたが、大臣としての活動は耳に入っていない。だからこそ、せつなく安倍首相のために入閣したので、すこしは仕事をさせてほしいと、署名を拒否してもらいたい。「政治家」としての真価が問われる。

小池百合子東京都知事を中心にした新党、「希望の党」に注目が集まる。民進党など離党者の多くが、「新党詣で」をするようだ。民進党は党名まで変え、代表選で新代表を選んだばかりだというのに。「情けない」の一言に尽きる。その代表までが離党「処分」したはずの旧党員らが参加する新党に擦り寄るとは。ここまできると、もう信じられなくなる。写真は「希望の党」結党会見でポーズを取る面々(朝日新聞9月27日夕刊1面)。



それと言いたいのは、小池知事の姿勢である。圧倒的な支持を得て都知事になり、言うこと為すことが豹変してきた。築地・豊洲問題では情報を隠蔽し、住民の声を無視して、豊洲移転を強行しようとしている。過去の歴史を顧みず、政治の右旋回に舵を切りつつある。知事と党首の二股では、すぐに都政が停滞するであろう。小池知事の政治姿勢と政治責任が問われる。

「希望」という子どもたちにとって大切な言葉が、政治により汚されるようで悲しくなる。大義なき解散と新党騒ぎは、日本の政治の劣化をまざまざと見せつける。

(2017年9月28日)